

(英語版)

(アラビア語版)

令和三年九月

(写真は語る)天国のはずが地獄だったベイルート：カルロス・ゴーンの場合

## 1.天国への逃走



裁判で保釈中のカルロス・ゴーン元日産自動車CEOが2019年12月に中東のベイルートに逃亡してから二年近くが経った。その手口があまりにも鮮やかであり、世界中の耳目を集めたのは周知のとおりである。逃亡先のベイルートはかつてのフランス植民地であり、風光明媚な自然としゃれた町並みから「中東のパリ」と呼ばれている。うち続く内戦のためかつての賑わいはないが、今も人気の観光地である。

ゴーンはトルコのプライベートジェット機で関西空港から不法出国、イスタンブールを経て大晦日にベイルートに到着、正式パスポートで堂々と入国した。保釈中のためパスポートは裁判所に取り上げられていたが、フランスのパスポートとレバノンの身分証明書で入国したと伝えられている。

ゴーンはブラジル生まれベイルート育ち。レバノン人は商才に長け古くからフェニキア商人と言われて世界に雄飛しているが、ゴーンの祖父もブラジルに移住、そこで孫の彼が生まれた。フランスの大学を卒業後、仏ミシュランに入社、ブラジル工場で頭角を現し、1966年、自動車メーカールノーの上級副社長にヘッド・ハンティングされた。こうした経歴を通じてレバノン、ブラジル、フランスの3カ国の国籍とパスポートを所有することになるのである。

彼が逃亡先にベイルートを選んだのはもちろん父祖の地であったことが最大の理由であろうが、レバノンと日本との間に犯罪者引渡条約が無いことも大きかったであろう。フランスとブラジルは日本との間には引渡条約があるからである。世界最大級の日産・ルノー自動車グループのトップに躍り出たゴーンは祖国レバノンで人気が高く、若者に英雄扱いされている事実も指摘しておきたい。

彼は妻とともにベイルート市内にある警備厳重な自邸に入った。この豪邸ももとはと言えば日産CEO在任中に会社が彼に貸し与えたものであ

り、不正経理問題の一つとして会社側が明け渡し請求をしていた物件である。しかし日本の司法権が及ばず「盗人猛々しい」と歯ぎしりしても後の祭りである。

実力者ゴーンは帰国早々アウン大統領に面会、大統領から歓迎の言葉を受けたと言われる(但し大統領府は面会の事実を否定している)。次に彼は逃亡を正当化する自己弁護を展開した。過酷な検察尋問や妻と面会できないことなど、日本での扱いがいかに非人道的であったかを声高に訴えたのである。日本における容疑者の扱いが厳しすぎるとの海外の評価は一部メディアでも報じられてきたが、彼はそれを逆手に取り、レバノンの大衆に訴えたのである。こうしたアピール作戦が一段落すると、彼はレバノン国内の活動に乗り出した。そのころ悪化しつつあったレバノン経済を復興するためとしてエグゼキティブ・トレーニング事業を始める、と発表したことなどはその一つである。

## 2. ベイルートは地上の地獄だった

しかしゴーンの身辺も次第に暗雲がかかり始めた。日本からベイルートまで彼を送り込んだトルコのジェット機会社のパイロットが裁判にかけられた。また彼の逃亡劇をサポートした元グリーンベレー隊員父子は米国から日本に引き渡され、現在裁判中である。フランス政府もベルサイユ宮殿での結婚式費用など会社経費不正流用の疑いで尋問官をベイルートに派遣している。

ゴーン本人の問題に加え、彼が舞い戻ったレバノンでも大きな問題が発生していた。政治の機能不全と新型コロナ禍により同国は深刻な経済危機に陥ったのである。元々レバノンはキリスト教、イスラム教スンニ派とシーア派が互いに対立する複雑なモザイク国家である。対立を棚上げするため独立時に権力を3分割する協定が結ばれ、大統領はキリスト教(マロン派)、首相はイスラム教スンニ派、国会議長は同シーア派に割り振られた。しかしその結果、各宗派がそれぞれのポストを既得権益化し、縁故主義と汚職が蔓延していた。政治は日常的に混乱し、その間隙を縫ってイランの後押しを受けたヒズボラーが勢力を伸ばし、イスラエルとの紛争も絶えなかった。それでも国内経済が好調な間、各勢力は微妙な均衡を保っていた。

その均衡を破ったのが昨年初めから世界を襲った新型コロナ禍であった。ヨーロッパからの観光客を目当てにした航空・観光業及び海外出稼ぎ者からの送金が二本柱であったレバノン経済は甚大な打撃を受けた。さらに追い打ちをかけたのが昨年8月ベイルート港で発生した硝安倉庫爆発事故である。二百人以上の死者と数千人規模の負傷者、多数のビル・家屋の倒壊と言う未曾有の惨劇となったが、事故は政治の無為無策が原因と言う見方が多い。

事故を受けて当時のディアブ首相が辞意を表明した。しかし大統領が後任に指名した首相候補者は政党間の駆



け引きと大統領の人事介入で次々と組閣に失敗し、一年以上経た今月、ようやく新内閣の顔ぶれが決まった。但しこれまでの例を見てもこれで政局が安定するか、はなはだ疑わしい。政治の機能不全とコロナ禍により経済はますます悪化、通貨の暴落とハイパーインフレは収まらず、レバノンには「地中海のベネズエラ」と呼ばれている。最近では外貨不足で発電用燃料の調達もままならず、首都ベイルートでは一日のうち22時間が停電している有様である<sup>7</sup>。失業率も日増しに高くなり、若者の国外脱出(エクソダス)が急増している<sup>8</sup>。

「このような想像を絶する劣悪な環境の中でカルロス・ゴーンはどうしているのでしょうか。もちろん警備厳重な豪邸に住み、莫大なドルを貯め込んだ彼にとって庶民の窮状など関係ないかもしれない。邸内に自家発電装置があり停電は他人事に違いない。しかし混乱する市内にも外出できず、ほとぼりが冷めるのを見計らって活動を再開しようとする目論見も当てが外れた。

「ゴーンにとって地獄の日本から天国のベイルートに戻ったはずであった。しかし現実には皮肉にも地獄の日々が再来したようである。彼はもう一度海外に逃げ出したいと思っているかもしれない。しかしフランスあるいはブラジルに渡った場合、日本政府の身柄引き渡し要求が待ち受けている。再起の地があるとすればルノー・日産時代に貯め込んだドルを手土産に独裁者が支配するどこかの国に行くしかなさそうだ。それとて独裁者が倒れば安住の地ではなくなる。今、彼はベイルートの豪邸でこれまでの輝かしい人生を思い出しながらもままならない日々をいら立ちを募らせているのではないだろうか。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)

---

<sup>1</sup> Ghosn met Lebanese president after fleeing Japan: sources  
2020/1/ The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/01/01/2020/Ghosn-met-Lebanese-president-after-fleeing-Japan-sources>

<sup>2</sup> “Make yourself invaluable” : Carlos Ghosn offers executive training in troubled Lebanon  
2020/9/29 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1741721/middle-east>

---

<sup>3</sup> Turkey sentences three to jail over Ghosn escape

<https://news.kuwaittimes.net/website/turkey-sentences-three-to-jail-over-ghosn-escape/>  
2021/2/24 Kuwait Times

<sup>4</sup> French judges question fugitive former Nissan exec Carlos Ghosn in Beirut

<https://www.arabnews.com/node/1867781/middle-east>  
2021/5/31 Arab News

<sup>5</sup> Lebanon forms government after 13 months

<https://www.arabnews.com/node/1926266/middle-east>  
2021/9/10 Arab News

<sup>6</sup> Report: Lebanon could turn into ' Venezuela of the Mediterranean'

<https://www.arabnews.com/node/1898076/middle-east>  
2021/7/21 Arab News

<sup>7</sup> Egypt agrees to send gas to Lebanon amid crippling energy blackouts

<https://www.arabnews.com/node/1924986/business-economy>  
2021/9/8 Arab News

<sup>8</sup> Lebanon exodus reaching tipping point as crisis accelerates

<https://www.arabnews.com/node/1920331/middle-east>  
2021/8/31 Arab News